

LOVE in Letter 27

～輸血を受けた患者さんのメッセージ～

ぼくが入院したのは中学二年になった最初のころです。

最初はぼくは入院といってもたいしたことはない そうおもっていました。

ですが入院する日が増えるたびにぼくの体調は悪くなっていきました。

そして その日数半分を過ぎたころでした。体の中にあるせいぶんが少ないということで輸血をすることになりました。

ぼくははじめて輸血がどれほど重要で大事なことをしりました。

そしてぼくのことを何一つ知らず顔もみたこともないのに無しようで自分の血をわけてくれる そんなありがたいことをしてくれる人もいるのかと思いました。

そしてぼくは ぼくに血をわけてくれた人に感謝し、そして自分も人のためになにかできる人間になろうと思います。